

システムワークフロー検討作業部会の検討状況

これからの学術情報システム構築検討委員会
システムワークフロー検討作業部会主査
飯野勝則（佛教大学）

はじめに

- 2022年度にシステムワークフロー検討作業部会が、取り組んだ活動の成果として「**これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針（2022）**」が、これからの学術情報システム構築検討委員会のウェブサイトから公開されている
- 本文書は「**これからの学術情報システムの在り方について（2019）**」で示された「**進むべき方向性**」に沿った形で、これからの学術情報システムが構成されることを前提とし、そこで流通する**メタデータの在り方**について、具体的に提言を行ったものとなっている

はじめに

これからの学術情報システムのメタデータ
収集・作成方針について (2022)

これからの学術情報システム構築検討委員会
システムワークフロー検討作業部会

これからの学術情報システム構築検討委員会

日本語 English

お知らせ

「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について(2022)」の公開について

「これからの学術情報システムのメタデータ 収集・作成方針について(2022)」の公開に ついて

2022-11-02

2022年11月1日(火)、「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について(2022)」が公開されました。これは、2019年2月15日付で公開した「[これからの学術情報システムの在り方について\(2019\)](#)」で示された「進むべき方向性」に沿ってシステムワークフロー検討作業部会が作成し、これからの学術情報システム構築検討委員会の承認を受けたものです。

以下よりご覧ください。

■[これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について\(2022\)](#)
(955.03 KB)
2022年11月1日

<https://contents.nii.ac.jp/korekara/news/20221102>

はじめに

- 「**これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針(2022)**」の作成は、当部会の構成員全体が取り組んだ活動であったが、当部会にとって、このような活動形式は**稀**なものであった
- これは、当部会は構成員が多く、また検討内容が多岐にわたることから、通常は「**班**」に分かれての活動・検討が主流となっているからである
- そこで、本日は当部会の各班における主要な活動・検討状況について、2022年度の**実績**と、今後の**予定される内容**などについて報告したいと考える

班の構成

① 国内電子・デジタル資料検討班

② メタデータ流通の高度化検討班

③ 統合的発見環境の整備班

④ 図書館システム整備班

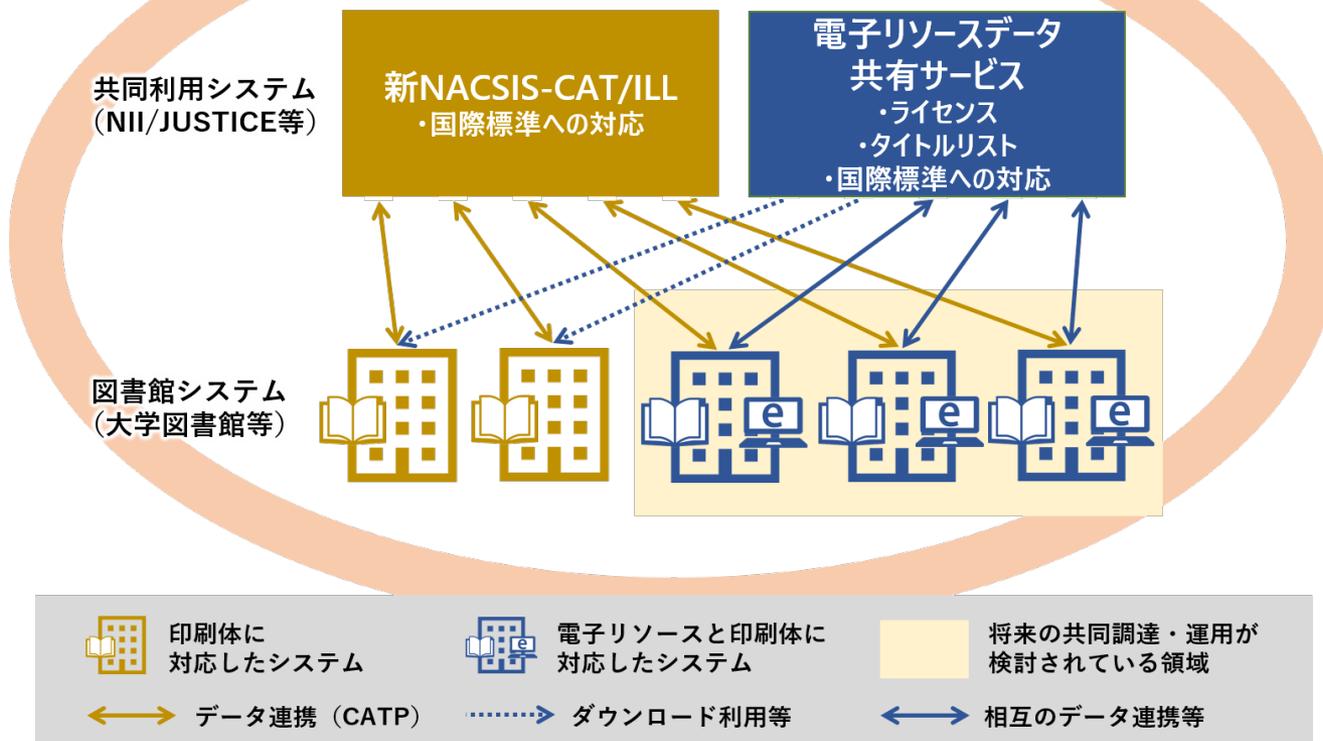
⑤ 電子リソースデータ共有班

□ 【運用・管理支援】 ERDB-JP 運用作業班

□ 【運用・管理支援】 新NACSIS-CAT/ILL 移行支援班

図書館システム・ネットワーク

図書館システム・ネットワーク（大学等）



- 「共同利用システム」と「図書館システム」から構成

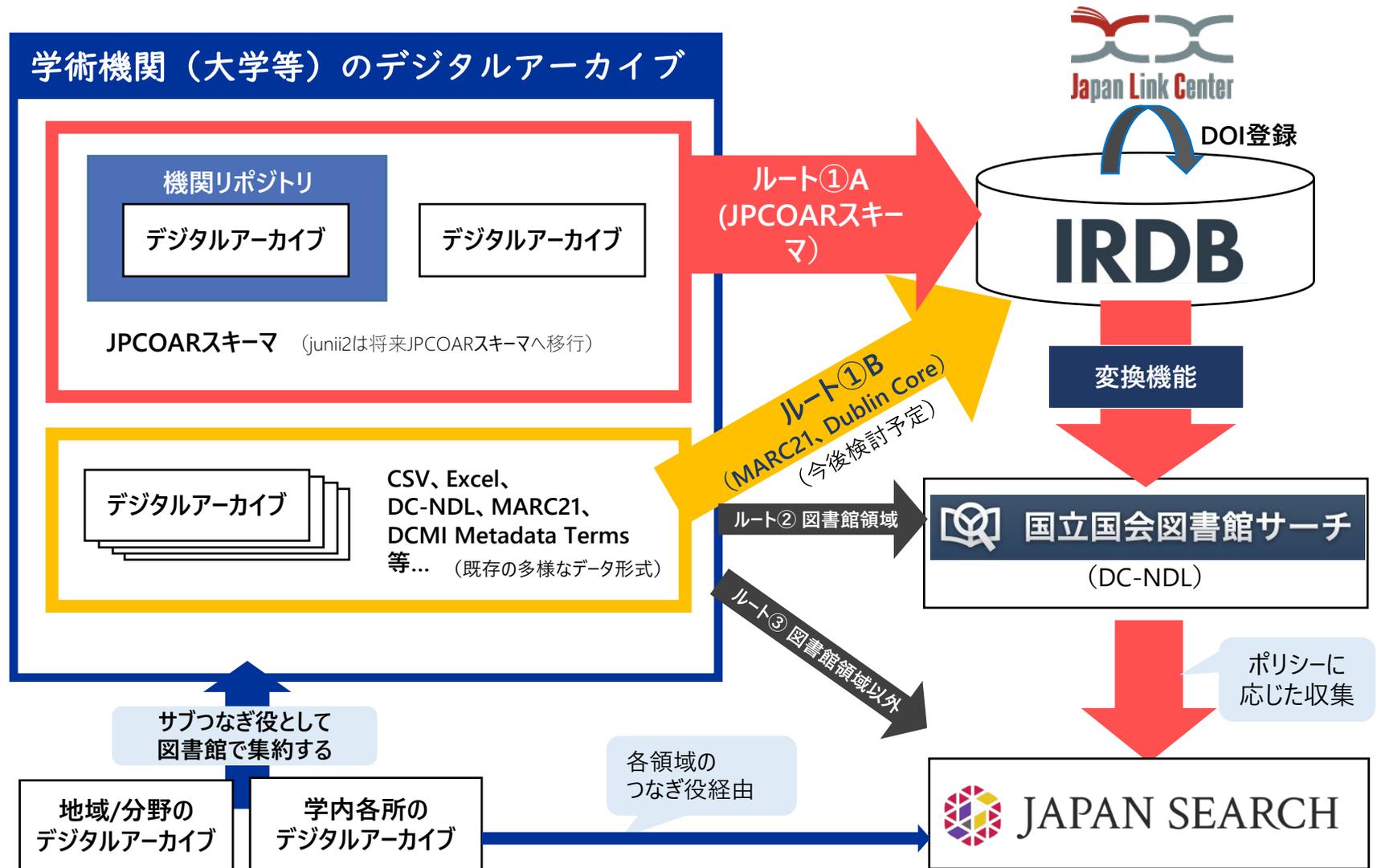
「① 国内電子・デジタル資料検討班」の活動・検討状況

- 紀伊國屋書店、丸善雄松堂をはじめとする複数の国内電子ブックのプラットフォームベンダーと書誌データ提供に関する折衝を開始した
- openBDの書誌データと、各社のサンプル書誌データのMARC21におけるフィールド項目のマッピングについて、データ統合を前提に検討を行った
- 電子ブックのマイクロコンテンツのメタデータに関しても、標準のフィールド項目を策定した
- 多様な「デジタルアーカイブ」のメタデータを収集し、ジャパンサーチへと流通させるための経路や、そのメタデータにおけるMARC21の適用可能性について、検討を開始した

「① 国内電子・デジタル資料検討班」の活動・検討予定

- 日本語の電子ブックの書誌データ（書誌レコード）を集約したディスクバリーサービスの**プロトタイプ（試作品）**を公開する予定
- 集約した電子ブックの書誌データを**CiNii Books**へ流通させ、「紙」と「電子」の図書を統合的に発見できる環境の整備を行えないかを優先的に検討
- 電子ブックの**目録化**をにらみ、電子ブックの書誌データ、所蔵にあたるアクセス情報等を業務用の図書館システムで活用するための仕組みの検討
- JPCOARスキーマで**記述されていない**、いくつかのデジタルアーカイブのメタデータについて、テスト的に共同利用システムでの収集を行い、その運用方法と技術的問題について検討

デジタルアーカイブの効率的なメタデータ流通経路（図）



「② メタデータ流通の高度化検討班」の活動・検討状況

- 新NACSIS-CAT へのNCR2018 適用について、適用細則案に基づいたコーディングマニュアル改訂案の作成を進めたほか、NCR2018 の洋書適用についてのユーザーグループの試行を実施した
- NDLや他の書誌作成機関との情報交換会に参加し、オンライン会議やMLでの情報収集を行い、著作データを作成する資料の範囲の検討を行った

「② メタデータ流通の高度化検討班」の活動・検討予定

- 「コーディングマニュアル」の改訂案を作成、公開する
- SNS (discord) 上で、ユーザグループとして「NCR2018の適用について」というチャンネルを運用し、「NCR2018適用細則案」に基づいた「コーディングマニュアル」の改訂案その他の広報ならびに意見収集を行う
- VIAF とのデータ共有を踏まえた「著作」の単位について、国内関係組織と調整のうえ、確定させる

「③ 統合的発見環境の整備班」の活動・検討状況

- 次期ILLに関する検討を行い、STL (Short Term Loan) についての調査、Article Galaxy Scholar 及びReprints Desk についての調査を行った
- 図書館等公衆送信サービスについては、関係者協議会からの情報、図書館等による図書館資料のメール送信等に関するガイドラインについての調査を実施した

「③ 統合的発見環境の整備班」の活動・検討予定

- 「次期ILLシステムの要求要件」や「統合的発見環境の要求要件」を具体化し、料金決済モデルの検討、決済機能の強化検討、電子的送信に関する調査・調整を行う
- 電子リソースのILLや料金決済モデルを設計するために、ユーザグループ等による意見収集を検討
 - 契約外のEJをILLで依頼したい or 受付したくない
 - 契約上OKなものであれば電子ファイルで送受信したい or したくない
 - 理想的な料金決済モデルとは？（相殺制度 or 会費制（定額制）によるモデル..etc.）

「④ 図書館システム整備班」の活動・検討状況

- 複数大学での図書館システム共同調達を想定し、図書館システムに求める要件を利用機関の規模等を加味して具体化した「**図書館システムガイドライン**」の作成に向けた検討を行った
- 図書館サービスプラットフォームのAlma に付属するオラクル製の「**ビジネスインテリジェンスツール**」（BI ツール）と「**データ可視化ツール**」について、前者を用いたCOUNTER統計を収集・分析するための手法や、後者を用いた図書館の業務分析の可能性について検討を開始した

「④ 図書館システム整備班」の活動・検討予定

- 2022年度と同様に、共同調達を想定し、利用機関の規模等を加味した「**図書館システムガイドライン**」の作成を目指し、図書館システムに求める要件を具体化する
- 「**ビジネスインテリジェンスツール**」（BI ツール）等の業務分析・利用評価ツールの活用可能性をはかるため、機能検証を引き続き行う

「⑤ 電子リソースデータ共有班」の活動・検討状況

- JUSTICE および学術コンテンツ課と調整しつつ、JUSTICE 提案を基にした「**ライセンス (JUSTICE)**」について、2022 年12 月に「電子リソースデータ共有サービス」上で本公開を実現させた
- 国内電子・デジタル資料検討班と調整しつつ、国内電子ブックのプラットフォームベンダーから提出されたサンプルの書誌データと、**openBD** の書誌データを統合・共有できるディスカバーサービスをテストし、書誌データの統合プロセスや画面における表示状況、検索機能の検証を行った

「⑤ 電子リソースデータ共有班」の活動・検討予定

- JUSTICE および学術コンテンツ課と調整し、JUSTICE 契約の電子ジャーナルについて、「電子リソースデータ共有サービス」からタイトルリストのダウンロード配布ができるようにする
- 「電子リソースデータ共有サービス」から海外ナレッジベースへの連携方法を検討する

おわりに

- 「班活動」が多岐に及びまた検討内容が増加する傾向にあることから、**人的リソース**に余裕がない状況が続いている
- このため、急速な進捗をもたらすことが難しいが、引き続き班活動を中心に、着実に課題の解決や検証に努めていきたい
- **個別課題**での対応にはなるが、ユーザーグループでの意見収集や情報共有等についても適宜行っていきたい

ご清聴ありがとうございました